

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター元浜担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和8年2月26日(木) 9:30～
2 開催場所	旧北小学校会議室
3 参加者	委員11名(曳馬6名、北地区5名)、関係機関9名 計20名
4 協議の内容	<p>【次第】</p> <p>(1)開会</p> <p>(2)挨拶 元浜圏域生活支援体制づくり協議体会長</p> <p>(3)新任委員紹介</p> <p>(4)協議事項</p> <p>1. 第2回会議振り返り 浜松市社協 CSW</p> <p>2. 「担い手」「広報周知」についてグループワーク</p> <p>①「担い手」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の担い手不足の現状、不足した役の担い方。 ・役を続ける方法、世代交代の手法。 <p>②「広報周知」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域各団体の広報状況 ・周知内容、対象者 <p>(5)連絡事項</p> <p>①年度替りによる所属や役職の変更について</p> <p>②次回会議日程：開催場所未定</p> <p>③地区社協合同フェアについて</p> <p>(6)閉会</p> <p>元浜圏域生活支援体制づくり協議体副会長</p>
5. グループワーク	<p><u>曳馬地区グループ</u></p> <p>(1)「担い手」</p> <p><u>①地域の担い手不足の現状、不足した役の担い方。</u></p> <p>【曳馬塾】塾宛てに10年以上継続していた団体から「高齢化で教えるのが難しく、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供達を預かってくれないか。」と依頼があった。 <p>⇒活動が難しくなった時のお願い先探しの検討も現実的になっている。</p> <p>【民生委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の人材を見つける事が大変

事前に説明を行い、声をかけても断られてしまう。

⇒車の運転が必要な場合も多く、曳馬地区だと免許を持っていない方もいる。

【地区社協】

- ・中学生に向けたボランティア養成講座を行った。実際に地区社協事業のボランティアにも参加して貰えており大活躍している。学校と地区社協や民生委員が連携する事で、災害時に向けても備える事ができると思う。

②役を続ける方法、世代交代の手法。

【自治会】

- ・担い手が仕事をしている方も多く、興味以前に忙しい方も多い。
役をやる方が会合などに参加しやすい日程や曜日時間の調整なども行っている

【民生委員】

- ・地域の女性が活躍している。
活動をやってみて「楽しい」「楽しかった」があると「民生委員活動をやった良かった」につながる。
- ・やりがいや楽しさを伝えたいのだが、やってみないと分からない事も多いので体験する機会を設ける。

(2) 広報周知

① 地域各団体の広報状況

【地区社協】

- ・世帯全戸配布で年2回配布している。
特徴としては見る方が楽しめるように、写真多く、表情豊かに。文字を大きく。

【自治会】

- ・若者は紙を見ない。自治会はインターネットの活用を模索中
でも、地域にはインターネットに対応できないような人もいる。
⇒紙+ネットのハイブリットが現状。少しずつ置いていかれてしまう人もいる。

【民生委員】

- ・地域の方に友愛訪問時に手紙を渡している委員がいる。
内容としては包括からの注意喚起にプラスして季節のメニューや健康の事などを伝えている。言葉だけでなく文章で伝える事も大切。
⇒一方で地域の情報格差が広がっていると感じる。

② 周知したい内容、対象者

- ・地区社協のイベント⇒様々な世代に伝えたい。
- ・自治会⇒インターネットの活用検討。一方で情報格差を生まない配慮も検討
- ・民生委員⇒友愛訪問のやり方検討。

北地区グループ

(1) 「担い手」

①地域の担い手不足の現状、不足した役の担い方

【自治会】

- ・中沢町では現任者が後任の役を探して見つけているが手詰まり感がある。
⇒町内にも40～200世帯あり、規模によって差があり小さい組はすぐに役が周って
きてしまう。
⇒新しい住居やマンションも町内にあるので役をやってもらいたい気持ちがはあ
るが、マンション管理組合とあまり繋がりを持っていない。

【地区社協・民生委員】

- ・小さな役でもいいので、やってもらえばつながりが持てる。
- ・下池川町では高齢化率が増加している。その影響で組長の役割が増加している。

②役を続ける方法、世代交代の手法

【自治会】

- ・自分が現職時に日頃から次に誰にやってもらおうのか探す。
- ・子どもを通じて親世代を巻き込む。
- ・子ども会の活性化⇒こどもフェスタ。

【地区社協・民生委員】

- ・地域の役が終わった方でも関わり続ける事が大事。
- ・若いころの繋がりから誘いあう事も多い。
⇒今の子ども達はつながりが希薄しているので心配

【役を担う方の活動モチベーション】

- ・人に対してどうあるべきか考えている。自分の為になる活動としてやっている。
- ・誰かの為に自分ができる事をやらせてもらっている。
⇒活動できるうちはどんどんやってもらおう。
- ・地域の事は肩ひじ張らずにやっていきたい。それぞれの良さを活かして欲しい。

(2) 「広報周知」

①地域各団体の広報状況

【地区社協】

- ・地区社協だよりを年2回⇒広報部で企画、取材。
- ・麻雀サロンに人が沢山集まる。人が集まる際に周知活動をしている。
- ・地区社協サロンによっては参加者不足⇒地区社協がバックアップ支援する必要も。
- ・今の時代に合った広報周知の検討⇒DX化の支援も必要。

	<p>【自治会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北地区は四町なので周知しやすい事がメリット。 ・他の地区ではSNSやブログなども活用している。⇒コロナから紙を遠慮する傾向。 ・中沢マルシェに合わせて実施しているスマホ教室が人気がある。 ⇒集まって楽しく、DXの推進。 <p><u>②周知したい内容、対象者</u></p> <p>【地区社協・民生委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代、子ども会に参加しないので保護者世代は情報を持っていない。 ・インターネット媒体⇒高齢者は文字が小さく見えない。 ・家事支援は地域の人に知られている。 <p>【自治会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者は回覧板を楽しみにしている人もいる。 ⇒回覧板で地域のイベント検討と周知。
<p>6. 今後の見通し・ 必要な対応</p>	<p>今後は①地域関係機関の情報共有やネットワーク作り②第二回、三回の会議にて収集した情報のまとめの報告を行う。報告後に協議体での取り組みを模索する。</p> <p>⇒新たな仕組み作りだけでなく、今ある社会資源の強化や支援も検討。</p> <p>⇒場合によっては再度課題を掘り下げる。</p>